

ふじさわ「まち・ひと・しごと」ビジョン

第2期藤沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2021年（令和3年）10月

2022年（令和4年）4月 一部改訂

2023年（令和5年）4月 一部改訂

藤 沢 市

藤沢市市政運営の総合指針2024

人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）

2050年まで人口40万人を維持し、高齢化率40%になっても都市と市民生活の質的低下を招くことなく、都市を『元気に』持続する。

基本目標	主要な施策	重点事業	
魅力あふれる 元気な都市を 創る(まち)	多彩な都市拠点の創出と交通ネットワークの整備	藤沢都心部の再整備及び活性化 総合交通体系整備の推進	
	社会情勢の変化に適応した海外・国内誘客の促進	国内外からの観光誘客の促進 安心して快適な観光施設の整備	
	文化・スポーツ活動等への支援	市民会館等の再整備 誰でも参加、利用しやすいスポーツ環境の整備 鶴沼海浜公園の改修	
	安全と安心が実感できる対策の充実	自然災害対策の推進(地震・津波) 自然災害対策の推進(風水害・土砂災害) 交通安全対策の充実	
あらゆる世代の 市民の元気を 創る(ひと)	地域のニーズに即した子ども・子育て支援の充実	放課後児童クラブの拡充 多様な子どもの居場所の確保	
	待機児童解消をはじめとする保育環境の充実	多様な保育ニーズへの対応とインクルーシブな保育の提供	
	困難を有する子ども・若者の自立支援	若者をはじめとする就労支援等の推進	
	健康づくりの推進	健康づくり推進に関する講座等の開催 安全・安心で健やかな妊娠・出産、産後の支援 がん検診の充実	
元気で活力ある 地域と経済を 創る(しごと)	人材育成の推進と定着の支援	介護人材の確保等に向けた各種事業の充実 保育人材の確保策の強化 市内農業の担い手育成	
横断的な目標	共に支えあう 元気なつながりを 創る(つながり)	多くの人が地域づくりに関わる環境の創出	市民との協働による藤沢の魅力発信組織・事業の運営 東京2020大会を契機とした市民活動の活性化
		住み慣れた地域における生活支援の充実	「藤沢型地域包括ケアシステム」の推進 誰もが安心して住み続けられる住生活の実現に向けた事業の推進
	次世代に引き継ぐ 元気な未来を 創る(みらい)	公民連携による持続可能な社会づくりの推進	多様な主体と協働した地球温暖化対策の推進 ごみの排出抑制、減量等の推進
		暮らしの質を高めるスマートシティの推進	最先端テクノロジーを活用したまちづくりの推進 デジタル市役所の実現 ICTの活用による教育の充実

1 はじめに

藤沢市は、総合計画に替わる仕組みとして「市政運営の総合指針」を定め、本市の現状と見通し、特性等を踏まえ、目指すべきまちの姿を明確化した上で施策を推進しています。この度、改定を行った「藤沢市市政運営の総合指針2024」との整合を図るため、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づく地方版総合戦略として本市が2016年（平成28年）3月に策定した「ふじさわ「まち・ひと・しごと」ビジョン」を全部改定するものです。

なお、改定にあたっては、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び県の「第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案した内容とします。

以上のことから、本ビジョンは次の考え方に基づき構成し、取組を進めます。

- ・本市の現状と見通し及び特性は、「藤沢市市政運営の総合指針2024」を参照することとします
- ・取組の期間は、「藤沢市市政運営の総合指針2024」と同様に2021年度（令和3年度）から2024年度（令和6年度）とします
- ・基本目標や主要な施策に、「藤沢市市政運営の総合指針2024」における長期的な視点（めざす都市像、まちづくりコンセプト、基本目標）及びまちづくりテーマ等（取組の考え方、まちづくりテーマ、重点施策）の要素を盛り込みます
- ・重点事業は、「藤沢市市政運営の総合指針2024」の重点事業から、国・県の総合戦略を勘案するなど、まち・ひと・しごと創生法の趣旨に合った事業を選定します

2 人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）

「藤沢市市政運営の総合指針2024」を踏まえ、人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）を定めます。

基本方針

2050年まで人口40万人を維持し、高齢化率40%になっても都市と市民生活の質的低下を招くことなく、都市を『元気に』持続する。

そのためには、人生100年時代を見据えた予防と支援の循環を生み出すこと、自分にあった生き方を選択し社会に前向きに参画できる環境を提供することが必要です。また、気候危機やデジタルトランスフォーメーション（DX）、経済構造や価値観の変化に対応するとともに、それを新しい産業や市民活動につなげる必要があります。さらに、コロナ禍を踏まえた「新たな日常の元気」を追求し、「藤沢らしさ」を磨き上げ、将来に引き継ぐことが必要です。

3 「まち・ひと・しごと」づくりの基本目標

基本方針を踏まえ、「まち・ひと・しごと」創生に結びつく展開を一体的に図るよう、基本目標を定めます。

国が第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり、第1期の政策体系を見直したことを踏まえ、「横断的な目標」を追加するとともに、関係人口を地域の力にすることや地域に人が集いやすくするといった視点を含めます。

基本目標1 魅力あふれる元気な都市を創る（まち）

江の島や湘南という言葉に象徴される、藤沢のもつ柔和で爽やかなイメージを高めつつ、そのイメージが「誇り」として市民に息づくよう、これまでの歴史・文化が織りなす魅力に磨きをかけるとともに、スポーツの価値を生かすなど新た

な魅力の創造に取り組みます。また、災害等に強くしなやかで、かつ誰もが集いやすく移動しやすい都市基盤を整備します。

〈2024年（令和6年）のベンチマーク〉

- 観光客数 年間2,000万人
(2020年（令和2年）：1,155万人)
- 市民意識調査における地域愛着度 81%
(2020年（令和2年）：81%)

基本目標2 あらゆる世代の市民の元気を創る（ひと）

少子化に歯止めをかけるため、職住近接で子育てしやすいまちとしてのブランド力を高めることにより、若い世代の転入人口と生産年齢人口を維持し、安心して出産・子育てができる環境づくりを推進します。また、生活習慣病等の予防、健康づくりの視点から、あらゆる世代での身体活動・運動を促進します。

〈2024年（令和6年）のベンチマーク〉

- 待機児童数 0人
(2021年（令和3年）：0人)
- 健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均） 1歳増
(2019年度（令和元年度）：〈男性〉81.8歳、〈女性〉85.0歳)

基本目標3 元気で活力ある地域と経済を創る（しごと）

藤沢で、働き方の変化に対応した豊かなライフスタイルを実現するとともに、若者や女性をはじめ多様なメンバーが力を発揮できるダイバーシティを推進します。また、担い手不足、人材不足の課題に対し、支援策の強化を図ります。加えて、積み重ねてきた産業集積等の強みを生かし、湘南の商工業の中心都市としての持続性を向上するための経済活動を支援します。

〈2024年（令和6年）のベンチマーク〉

- 市内事業所数（卸売業・小売業） 3,100事業所
(2016年（平成28年）：3,197事業所) ※経済センサス

- 市内事業所数（工業） 280事業所
（2018年（平成30年）：288事業所）※工業統計調査

横断的な目標1 共に支えあう元気なつながりを創る（つながり）

藤沢に関わりのある一人でも多くの人々がシビックプライド（郷土への愛着と誇り）を持てるよう、多様な主体との協働を推進します。また、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるだけでなく、暮らしの質を高め、生涯活躍できる豊かな関係性の創出に取り組みます。

〈2024年（令和6年）のベンチマーク〉

- 地域福祉ボランティア登録者数 7,200人
（2020年度（令和2年度）：6,902人）

横断的な目標2 次世代に引き継ぐ元気な未来を創る（みらい）

歴史と文化、自然の豊かさなどの「藤沢らしさ」を未来につなぐため、目指すべきまちの姿を見据えたバックキャスティング（逆算）の視点を取り入れ、持続可能な社会に自分ごととして取り組むとともに、市民自らがテクノロジーを上手に活用でき、便利で暮らしやすい市民中心のスマートシティを実現します。

〈2024年（令和6年）のベンチマーク〉

- SDGsの認知度 70%
（2020年度（令和2年度）：35.5%）※神奈川県「県民ニーズ調査」

4 まち・ひと・しごとづくりの主要な施策と重点事業

基本方針及び基本目標を踏まえ、次の主要な施策、重点事業を中心とした取組を進めます。

なお、重点事業は「藤沢市市政運営の総合指針2024」の重点事業（別冊「事業集」に掲載される事業）から選定することとします。そのため、毎年度更新される「事業集」に合わせ、社会情勢にあった事業を追加するなど柔軟に見直していきます。

基本目標 1 魅力あふれる元気な都市を創る（まち）		
主要な施策 1 多彩な都市拠点の創出と交通ネットワークの整備		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標 ¹
藤沢都心部の再整備及び活性化	交通の結節点である藤沢駅において、来街者が円滑に通行できる空間を整備するとともに、にぎわいや交流等を促進します。	歩行者空間の快適度（20%ポイント増）
総合交通体系整備の推進	都市基盤や公共交通の充実を図るとともに、誰もが利用しやすく、地域に根差した交通環境の整備に努めます。	最寄り駅まで15分圏の人口割合（75%）
主要な施策 2 社会情勢の変化に適応した海外・国内誘客の促進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
国内外からの観光誘客の促進	観光情報の発信や、ビッグデータ・デジタル技術等を活用することなど受入環境の充実を行うことで、誰もが楽しく安心して周遊できるような環境を整え、国内外からの更なる観光誘客に取り組みます。	年間観光客数（2,000万人）

¹ 重要業績評価指標（KPI：Key Performance Indicator） 目標の達成度合いを計る定量的な尺度で、現況を指し示す様々な指標の中から、進捗を表現するのに最も適していると思われるものが選択されます。

安心で快適な観光施設の整備	昼間の観光誘客を促進するなど、観光客の分散化や消費型観光に加え体験型観光を促し、快適に過ごせる観光地を目指した環境整備を行います。	年間江の島サムエル・コッキング苑入苑者数（１００万人）
主要な施策３ 文化・スポーツ活動等への支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
市民会館等の再整備	長年にわたり市民の文化活動の中心を担ってきた市民会館と図書館、その他施設の複合化による再整備を行い、新たな生活・文化の拠点整備に取り組みます。	市内に文化的な魅力があると感じる人の割合（５０％）
誰でも参加、利用しやすいスポーツ環境の整備	東京２０２０大会を契機とし、誰もが生涯にわたって多様なスポーツ活動に親しめるよう、ソフト・ハード両面のスポーツ環境の整備等を推進します。	年間施設利用者数（１３５万人）
鵜沼海浜公園の改修	公募設置管理制度（Park-PFI）により、民間事業者のノウハウを活用した魅力ある公園整備・管理運営を行います。	公園利用者数（２０％増）
主要な施策４ 安全と安心が実感できる対策の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
自然災害対策の推進（地震・津波）	発生リスクが高まっている地震津波対策を中心に、想定される災害の被害を最小限に留めるための取組を進めます。特に、迅速かつ確実な避難の実現に向け、必要とされる津波避難施設の整備を実施します。	津波避難が困難な地域における津波避難施設（１箇所増）
自然災害対策の推進（風水害・土砂災害）	激甚化する自然災害による浸水被害の軽減等を図り、周辺住民及び施設利用者等の安全確保に資するため、河川改修工事や公園等の法面对策工事を行います。	一色川改修事業改修率（１２．６％）

交通安全対策の充実	過去の交通事故の教訓を踏まえ、未就学児を含む市民が安心して移動できるよう、交差点等の交通安全対策を計画的に推進します。	安全対策実施済交差点数(累計182交差点)
-----------	---	-----------------------

※ 重要業績評価指標は、2024年(令和6年)の目標値

基本目標2 あらゆる世代の市民の元気を創る(ひと)		
主要な施策1 地域のニーズに即した子ども・子育て支援の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
放課後児童クラブの拡充	放課後等における安心・安全な居場所、生活の場を確保するため、放課後児童クラブの拡充を図ります。	定員(4,500人)
多様な子どもの居場所の確保	放課後児童クラブ以外の子どもの居場所を拡充し、多様な機会を提供することで、保護者の就労と子育て支援を推進します。	サマースクール実施箇所数(4箇所)
主要な施策2 待機児童解消をはじめとする保育環境の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
多様な保育ニーズへの対応とインクルーシブな保育の提供	待機児童ゼロを継続するため、多様な保育ニーズに的確に対応するとともに、医療的ケア児保育などインクルーシブな保育の提供に取り組めます。	待機児童数(0人)
主要な施策3 困難を有する子ども・若者の自立支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
若者をはじめとする就労支援等の推進	就労に困難を有する若年者の自立、就職、定着に至るまでの支援を推進します。	進路決定者数(年間110人)
主要な施策4 健康づくりの推進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
健康づくり推進に関する講座等の開催	健康講座等を気づきの機会として、身体活動・運動を促進することで、健康寿命の延伸を目指します。	体を動かす人の割合(10%ポイント増)

安全・安心で健やかな妊娠・出産、産後の支援	妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を可能とし、親子の健康の確保及び増進につなげるため、妊産婦健康診査及び産後ケア事業に取り組みます。	産後ケア事業の利用率（30%）
がん検診の充実	がんの早期発見、早期治療につながるがん検診を実施します。また、受診率向上に向けて普及啓発の充実を図ります。	がん検診受診率（50%）

基本目標 3 元気で活力ある地域と経済を創る（しごと）		
主要な施策 1 人材育成の推進と定着の支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
介護人材の確保等に向けた各種事業の充実	介護職の魅力を伝えるなど多様な介護人材を確保する事業を実施するとともに、介護現場の生産性向上に向けた取組を支援します。	「人員は充足している」と感じている市内事業所の割合（50%）
保育人材の確保策の強化	多様化する保育ニーズに対応できるよう、依然として不足が生じている保育人材の確保について、様々な方策を実施します。	保育士不足による定員までの受入ができない児童数（0人）
市内農業の担い手育成	市内農業の持続性を維持するため、新たな担い手や農業後継者、及び農業者を支援する市民ボランティアに対する支援を行います。	新規就農者数（年間10人）

横断的な目標 1 共に支えあう元気なつながりを創る（つながり）		
主要な施策 1 多くの人が地域づくりに関わる環境の創出		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
市民との協働による藤沢の魅力発信組織・事業の運営	藤沢における交流・定住等を促進するため、魅力の再認識と創造を目指したシティプロモーションを推進します。	ふじさわファンクラブ会員数（5,500人）

東京2020大会を契機とした市民活動の活性化（事業インセンティブ（ポイント制度）の運用を統合）	東京2020大会を契機とした各種ボランティア活動等をレガシーとして引き継ぎ、さらなる活性化につなげるため、ポータルサイトを活用した「チームFUJISAWA2020」の取組を推進します。	ボランティア登録者数（3,000人）
主要な施策2 住み慣れた地域における生活支援の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
「藤沢型地域包括ケアシステム」の推進	すべての市民が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、藤沢型地域包括ケアシステムを推進します。その上で、支援を必要とする人が、身近な地域で確実に支援を受けることができる相談支援体制を確立します。	CSW ² の新規相談受付件数（前年度比10%増）
誰もが安心して住み続けられる住生活の実現に向けた事業の推進	高齢や障がいなどを理由に住宅が借りられないなど、様々な配慮が必要な市民のため、住宅セーフティネットとして居住支援協議会を活用し、福祉施策と連携した賃貸住宅における居住支援の取組を推進します。	居住支援協議会のスキームの中で集計した実績の件数（50件）

横断的な目標2 次世代に引き継ぐ元気な未来を創る（みらい）		
主要な施策1 公民連携による持続可能な社会づくりの推進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
多様な主体と協働した地球温暖化対策の推進	地球温暖化対策について、企業と連携した調査・研究を実施するとともに、各種補助事業や普及啓発等、市民・事業者・行政が一体となった取組を進めます。	太陽光発電システム補助による導入容量（累計13,017kW）

² CSW（コミュニティソーシャルワーカー） 地域において、支援を必要とする人々の生活圏や人間関係等の環境面を重視した援助を行うとともに、地域での支援活動と支援を必要とする人との結びつけたり、新たなサービスを開発したり、公的制度との関係を調整したりする社会福祉活動（コミュニティソーシャルワーク）を行う人をいいます。

ごみの排出抑制、減量等の推進	食品ロスの削減に向けた取組の推進やプラスチックごみ削減に関する啓発等を実施するとともに、国際的に関心が高まっている海洋プラスチックごみ対策を検討・実施します。	市民1人1日当たりのごみ排出量 (839g)
主要な施策2 暮らしの質を高めるスマートシティの推進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
最先端テクノロジーを活用したまちづくりの推進	生活支援ロボットの利活用及び普及啓発を推進する事業を継続するとともに、市民中心のスマートシティの実現に向け最先端テクノロジーの積極的な活用を推進します。	年間ロボテラス来訪者数(5,000人)
デジタル市役所の実現	市民生活の質を高めるため、行政手続のオンライン化を実施するとともに、デジタルデバイド対策の取組も実施し、庁内外のデジタル化を推進します。また、マイナンバーカードの普及促進を図ります。	年間行政手続のオンライン化数(5手続)
ICTの活用による教育の充実	GIGAスクール構想等によるハード・ソフト・人材を一体とした教育環境の整備を進めることにより、ICTを活用した学習活動の充実を図ります。	ほぼ毎日ICTを活用した授業を実施する割合 (100%)